第２章　男女の別（人口性比）

１　人口性比

人口性比は調査開始以来最も低い 100.6 へ

人口を男女別にみると、男性は 1,849,767 人、女性は 1,839,006 人で、男性が 10,761 人多く、人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は、100.6 と、調査開始以来最低となりました。

本市の人口性比の推移をみると、第１回調査の大正９年以降、一貫して 100 を上回っていますが、その時々の社会情勢により上下しています。大正９年から昭和 10 年にかけて人口性比は低下してきましたが、本市産業の重工業化により労働力人口を吸引したことで、昭和 15 年に 108.2 に上昇しました。第２次世界大戦により男女別構成に変化が生じ、昭和 25 年には 102.0 にまで低下しました。その後、高度経済成長に伴う都市部への人口集中により、人口性比も徐々に上昇し、昭和 40 年の 107.8 まで上昇しました。それ以降は、昭和 60 年、平成２年に上昇したものの、高齢化の進展に伴う女性の死亡率低下などにより、人口性比は低下傾向を示しています。

平成 22 年の人口性比を年齢５歳階級別にみると、10 歳から 24 歳にかけては年齢が高くなるにつれ上昇しており、20～24 歳は 112.5 と最も高くなっています。25 歳から 39 歳にかけては年齢が高くなるにつれ低下し、40 歳から 49 歳にかけては上昇しています。50 歳以上では、年齢が高くなるにつれ低下し、60 歳以上では 100 を下回り、女性が男性を上回っています。（表２－１、２－２、図２－１）

表２－１　男女別人口の推移

（大正９年～平成 22 年）

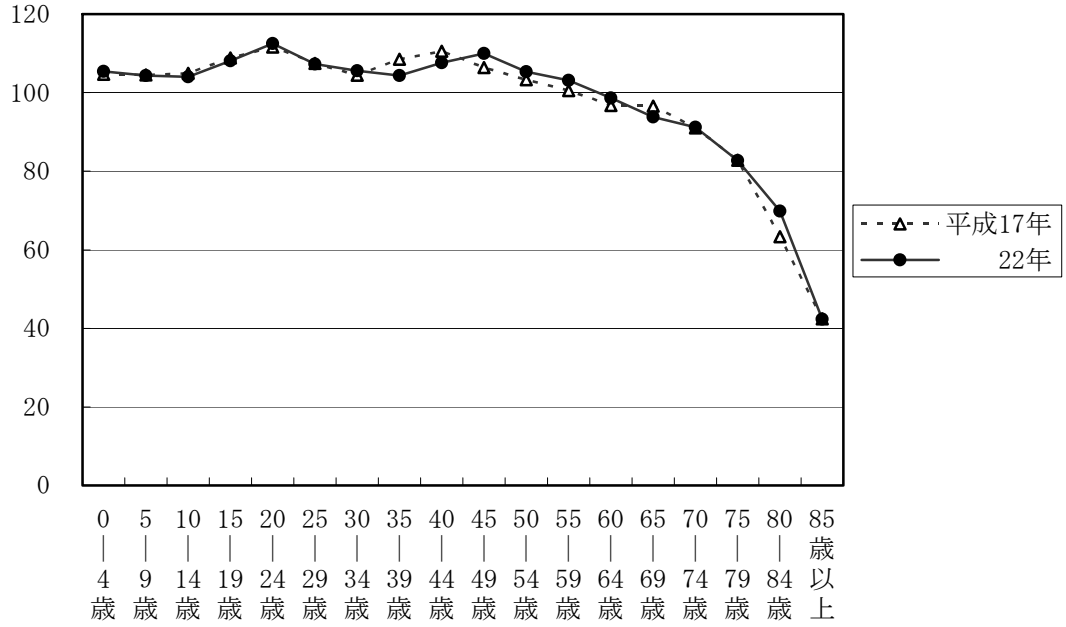
年　次	人　口		人口性比
	男	女	
大正　９年	224,046	198,892	112.6
14年	214,341	191,547	111.9
昭和　５年	321,415	298,891	107.5
10年	360,363	343,927	104.8
15年	503,199	464,892	108.2
22年	417,193	397,186	105.0
25年	480,242	470,947	102.0
30年	579,774	563,913	102.8
35年	700,727	674,983	103.8
40年	927,970	860,945	107.8
45年	1,160,455	1,077,809	107.7
50年	1,349,001	1,272,770	106.0
55年	1,417,015	1,356,659	104.4
60年	1,532,758	1,460,168	105.0
平成　２年	1,651,527	1,568,804	105.3
７年	1,685,332	1,621,804	103.9
12年	1,735,392	1,691,259	102.6
17年	1,803,579	1,776,049	101.6
22年	1,849,767	1,839,006	100.6

表２－２　年齢（５歳階級）別人口性比の推移

（大正９年～平成 22 年）

年　齢	大正９年	昭和25年	45年	平成17年	22年
総　数	112.6	102.0	107.7	101.6	100.6
0～ 4 歳	101.0	104.9	105.4	104.7	105.4
5～ 9	103.5	102.9	104.6	104.5	104.3
10～14	108.2	101.6	104.0	104.9	104.0
15～19	126.8	106.7	128.5	108.8	108.1
20～24	111.0	116.2	129.4	111.6	112.5
25～29	127.9	92.6	107.0	107.4	107.2
30～34	123.7	90.0	109.3	104.4	105.6
35～39	118.4	100.6	109.6	108.5	104.3
40～44	120.8	104.1	112.0	110.6	107.6
45～49	121.5	110.1	95.5	106.3	110.0
50～54	113.6	108.7	90.1	103.2	105.4
55～59	109.2	110.1	97.2	100.5	103.1
60～64	96.5	98.5	94.4	96.8	98.6
65～69	78.8	77.5	89.9	96.6	93.8
70～74	68.3	67.4	78.8	91.1	91.2
75～79	63.8	59.1	70.3	82.8	82.7
80～84	46.9	47.8	57.3	63.3	69.8
85歳以上	36.4	29.7	42.7	42.4	42.4

図２－１　年齢５歳階級別人口性比（平成 17 年、22 年）



静岡市及び北九州市を除く大都市で人口性比が低下

大都市の人口性比をみると、川崎市が 104.5 で最も高く、次いで相模原市の 101.5、横浜市の 100.6、さいたま市の 100.0 となっており、これら関東の４市で男性が女性を上回っています。また、これらを含む９都市で全国平均（94.8）を上回っています。

平成 17 年に比べて、全国平均が 0.5 ポイントの低下となっており、また大都市においても川崎市で 2.8 ポイント、福岡市で 2.6 ポイント、札幌市で 1.4 ポイントなど、静岡市及び北九州市を除く大都市で低下しています。（表２－３）

表２－３　大都市の人口性比（平成 12 年～22 年）

都　市	平成12年	17年	22年	平成12年～17年の差	平成17年～22年の差
札幌市	91.1	89.6	88.2	△1.5	△1.4
仙台市	97.0	95.4	94.4	△1.5	△1.1
さいたま市	－	101.0	100.0	－	△1.0
千葉市	101.8	100.3	99.7	△1.5	△0.6
東京都区部	98.9	98.4	97.3	△0.5	△1.1
川崎市	108.3	107.4	104.5	△1.0	△2.8
横浜市	**102.6**	**101.6**	**100.6**	**△1.1**	**△1.0**
相模原市	－	－	101.5	－	－
新潟市	－	－	92.6	－	－
静岡市	－	94.8	94.8	－	0.1
浜松市	－	－	98.4	－	－
名古屋市	99.1	98.6	97.3	△0.6	△1.3
京都市	92.2	91.1	90.7	△1.1	△0.4
大阪市	96.0	94.9	94.3	△1.1	△0.6
堺市	－	－	92.6	－	－
神戸市	91.5	90.4	89.9	△1.1	△0.5
岡山市	－	－	92.6	－	－
広島市	94.7	94.0	93.0	△0.7	△1.0
北九州市	89.8	88.6	88.7	△1.2	0.1
福岡市	93.4	92.4	89.8	△1.0	△2.6
神奈川県	103.1	102.2	100.9	△0.9	△1.3
全国	95.8	95.3	94.8	△0.5	△0.5

２　行政区の人口性比

人口性比 100 を下回る区が 11 区

行政区別に人口性比をみると、中区が 111.8 で最も高く、次いで鶴見区の 108.3、港北区の 104.12、神奈川区の 104.08、西区の 103.3、都筑区の 101.8 となっており、これら６区が市平均を上回っています。一方、人口性比が最も低いのは旭区の 96.3 となっています。

平成 17 年と比べると、西区、中区及び磯子区を除く 15 区で人口性比が低下しており、100 を下回った区は 10 区から 11 区に増加しています。特に、旭区で 2.8 ポイント、青葉区で 2.1 ポイント、神奈川区で 2.01 ポイント、瀬谷区で 1.96 ポイントなどと大きく低下しています。（表２－４）

表２－４　行政区の人口性比（平成 12 年～22 年）

行政区	平成12年	17年	22年	平成12年～17年の差	平成17年～22年の差
横浜市	102.6	101.6	100.6	△1.1	△1.0
鶴見区	109.3	109.3	108.3	0.0	△1.0
神奈川区	106.9	106.1	104.1	△0.8	△2.0
西区	103.1	102.1	103.3	△1.0	1.2
中区	110.6	110.3	111.8	△0.3	1.5
南区	100.2	99.5	99.4	△0.7	△0.1
港南区	100.6	99.9	98.8	△0.7	△1.2
保土ケ谷区	102.1	101.2	100.2	△0.9	△1.0
旭区	99.8	99.1	96.3	△0.7	△2.8
磯子区	98.9	97.4	97.6	△1.5	0.2
金沢区	99.7	98.7	97.6	△1.0	△1.1
港北区	105.9	104.4	104.1	△1.5	△0.3
緑区	102.2	99.9	98.8	△2.3	△1.1
青葉区	101.8	99.7	97.7	△2.1	△2.1
都筑区	104.4	103.0	101.8	△1.4	△1.2
戸塚区	101.6	100.4	99.3	△1.3	△1.1
栄区	97.9	97.2	96.9	△0.7	△0.3
泉区	99.3	97.7	96.9	△1.6	△0.9
瀬谷区	101.1	99.2	97.2	△1.9	△2.0